

平成30年度 学校経営計画中間評価



広島県尾道南高等学校

目 次

目 次	1
-----------	---

平成30年度 学校評価（中間評価）

平成30年度自己評価シート(中間評価)	<様式3>.....	2
---------------------	------------	---

平成30年度自己評価シート(中間評価まとめ)	<様式4>.....	5
------------------------	------------	---

平成30年度関係者評価シート(中間評価)	<様式7>.....	6
----------------------	------------	---

平成30年度自己評価シート(中間評価)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	宮崎 了昭	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

学校経営目標					
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
1 学びの変革を推進し、生徒の多様な実態に対応しながら、基礎的・基本的な知識や技能を育成するとともに、生徒が主体的に活動しあい、思考力・判断力・表現力を高めることができる。					
生徒が見通しを持って主体的に学習しようとする意欲や態度を育てる授業を行う。	(1) 授業のユニバーサルデザイン化を図り、達成感、充実感の味わえる教材や授業づくりを行う。 (2) 構造化を図り、学習環境を整備する。 (3) 特別支援教育支援員、教科アシスタントとの連携、支援のあり方について工夫する。 (4) 校内及び公開授業研究会を実施する。 (5) 振り返りシートによる授業評価を実施し、成果や課題を共有する。	B	・1学期時点において、振り返りシートによる授業満足度は68%。 ・校内授業研究会を実施し、教職員アンケートで高評価を得た。 ・授業評価について、成果や課題の共有化についてはこれからである。	教務部	
体験学習を通して、他者と協働的に取り組む態度を育てるとともに、自己理解を深めさせる。	(1) 体験学習の目標や意義を生徒に明確に伝える。 (2) 協働的な活動に取り組む中で、ソーシャルスキル、コミュニケーションスキル等を育てる。 (3) 体験文としてまとめ、振り返りを行う。	B	・自然体験学習として、大豆づくりを計画し、現在実施中である。	教務部	
個別の合理的配慮を考慮し、生徒の共通理解に努め、組織的・統一的に支援の充実を図る。	(1) 家庭・関係機関との連携を深め、生徒理解に努めるとともに、学校への定着を支援し、満足度・充実感を高める。 (2) 授業におけるナチュラルサポート(基礎的環境整備)や言語活動における思考のツールを確立し、それののった組織的・横断的支援を行う	B	・生徒理解支援会議を1回開催した。 ・尾道市訪問支援事業を今後2回実施予定である。 ・個別の支援・指導計画アセスメントを9件作成した。 ・授業での支援スタッフの協力体制を構築した。	教育支援	

【評価結果の分析】

- 教育的な支援の観点に立った授業については共通認識されてきており、各教科における教材作成や授業展開、試験問題、発問や言葉かけ等の工夫・改善の積み重ねが一定の評価となって表れていると思われる。
- 校内授業研究会では、授業の準備、プレゼンテーションソフトによる視覚的な提示、発問の工夫等、工夫や効果を感じられた点について意見が出された。また、遅れて授業に参加する生徒への対応、プリントや板書の工夫等、教員全員が工夫、改善すべき点についても意見が出され、協議を深めることができた。
- 今年度より、振り返りシートの質問項目を変更したため、授業満足度が昨年度よりも低い数値となっている。(昨年度 79%)
- 困難性を抱えている生徒たちが自己肯定感を少しでも高め、安心して学校生活を送るため、教職員が組織的に行動できるよう担任・副担任が個別の支援指導計画アセスメントを作成し、生徒理解支援会議を開催した。
- 日常の安定した授業参加や活動ができるよう、非常勤講師、特別支援教育支援員・教科アシスタントの協力体制を構築し、一定の成果を上げることができた。

【今後の改善方策】

- 授業満足度の結果をふまえて、個の生徒に視点をあてたときにどのような支援が必要か、また、生徒の主体的な学習につながっているか、達成感・充実感が得られるものになっているかという視点を持つことが必要である。
- 授業研究会(校内・公開)について、その意義を共通認識し継続して実施する。また、非常勤講師を含めた全教職員による参加体制について課題として考えていく。
- 振り返りシートについての活用方法や、成果や課題の共有化の方法について、部内で意見交換する場を2学期に持つことから始める。
- 困難性を持つ生徒の特性については、現状ではほぼ理解できている。しかし、具体的な手立てが確立していないため、今まで以上に保護者と信頼関係を持ち、関係機関に相談する体制を確立して、具体的な取組を考え、実践していく必要がある。
- 学校や授業に位置づけることが困難な生徒に対して、日常の声掛けや対応を振り返り、本人や保護者に届くような言動を身につけ、実践していく必要がある。

2 キャリア教育を充実させ、一人一人の社会的・職業的な自立に向けて、社会人として必要な能力・技能や態度を育てる。				
自己理解・他者理解を深め、自己肯定感の高揚を図る。	(1) 集団における学習を通して、様々な物の見方や考え方に触れ、ありのままの自分を受け入れ(自己受容)、自己肯定感を高めさせる取組みを行う。 (2) 自分の考えをまとめ、自分の言葉で工夫して表現しようとする主体的な態度・意欲・積極性を身に付けさせる。	B	○「キャリア教育ワークシート」の実施率が82%であり、自分の全体像を把握する作業を行った。 ○自分を振り返り見つめ直す生活体験文の取組みを、3学期に実施する。	進路指導部
社会的・職業的な自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	(1) 家庭訪問・地域の企業訪問・職業安定所・就労支援関係事業所・生徒の職場との連携を深める。 (2) 社会参加を基盤として、自らの人生と将来を展望し、社会的・職業的な自立を達成するための進路・職業選択、自己決定に関わる諸能力の形成を目指す。	B	○ジョブシャドウイング・インターンシップは、受け入れ先の新規事業所を開拓し、生徒の選択肢の幅が広がった。 ○ジョブシャドウイング・インターンシップに参加した生徒の93%が肯定的評価をし、86%の生徒が昼間に活動してみたいという気持ちになった。 ○関係機関との連携を密にすることにより、個々の生徒に合わせた進路実現に向け取り組んでいる。	進路指導部

【評価結果の分析】

- 生徒一人一人の合理的配慮を考えるうえで、「困難性がおきないための支援」をするために作成した「キャリア教育ワークシート」については、82%が取り組み、多くの生徒が自分を見つめ直すことにつながった。
- ジョブシャドウイング・インターンシップでは、日報・評価シートの記入を新たに取り入れ、生徒が毎日の作業を振り返ったり、事業所からの評価をもらうことで、仕事をする上での自分を見直したりすることにつながった。
- ジョブシャドウイング・インターンシップの取組みにより、参加した生徒は充実感や自分自身の成長を感じ、次なる活動への意欲につながっている。また、4日間の日程をやり切ったことで、自信につながり、参加した事業所への就労につながった生徒もいる。

【今後の改善方策】

- 「キャリア教育ガイダンス」「キャリア教育講演会」「生活体験文の記録」が、学年状況や個々の生徒の状況を勘案し、教育的な支援を行うことによって、自己肯定感を高めるものになるようにする。
- 正採用・アルバイト・パート・派遣社員・就労継続支援A型・就労継続支援B型・社会福祉制度利用という様々な社会参加のスタイルを踏まえ、『自立』や『社会参加』に対する柔軟な発想を持ち、生徒・保護者の意をくみ取った進路指導の在り方を模索していく必要がある。
- 生徒の進路選択の幅を広げるために、事業所や関係諸機関との連携、新規事業所の開拓に努め、ネットワークを広げていく。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
3 危機管理を徹底し、生徒に自己肯定感を持たせるとともに、自己教育力、豊かな人間性を育て、安心して学べる。				
集団や社会の一員としての自己実現を達成するために、指導方針を明確にすると共に、ルールを明示し、生徒一人一人への理解と支援のための取組を講ずる。	(1) ルール・マナーを常に掲示し、全教職員が同一歩調で指導する体制を構築する。 (2) 校内巡回(授業開始10分間の巡視等)や登下校時の校外巡回等継続的に実施する。 (3) 日常的な教育的配慮による声かけを行う。 (4) 生徒全員の課題を全教職員で共有し、協力連携して指導に当たる体制を確立する。	B	・おおむね順調に進んでいる。	生徒指導部

生徒会活動や地域貢献活動等を通して、仲間と共にパフォーマンスを高め合おうとする態度を育て、社会人としてのスキルアップを図る。	生徒会の伝統を継承するだけでなく生徒会活動への新しいアイデアや発想の導入を奨励し、その活性化を図ると共に連帯意識を高める。 (1)生徒が主体的・自発的に各種生徒会行事の企画・運営等を行うことを通して、主体性やリーダーシップを養わせる。 (2)生徒会を中心とした地域貢献活動に取り組み、社会人としての責任を認識させる。	C	・クラブ活動の活性化に課題がある。	生徒指導部
自他の命や人権を尊重するとともに、学校安全体制の整備を推進する。	生徒一人一人の特性を認め合い、自己肯定感を得られる授業作り、集団作り、学校作りを学校全体で行っていく。 (1)いじめ防止委員会を中心とした学校安全体制を機能化させる。 (2)各教科・HR活動等で、人権教育を推進していく。	B	・7月末に生徒・保護者を対象とした、第1回学校生活改善アンケートの結果から。	総務保健部

【評価結果の分析】

- 今年度になってから休学者1名、退学者3名である。生徒数の6%である。
- 玄関前及び校門周辺での巡回を毎日行っている。下校時の校外巡回も毎日行った。
- 積極的な指導を行い、喫煙で4名指導した。小さな事象でも見逃さず「いじめ防止」に取り組んでいる。
- スマートホンの使用に関する指導を統一的に導入して成果を実感できている。
- 第1回目の「学校生活改善アンケート」の生徒提出率は93.3%、保護者の提出率は93.0%であった。生徒の「安心・安全度」の肯定的な意見は69.6%、保護者の肯定的な「安心・安全度」は92.5%であった。

【今後の改善方針】

- 授業中の巡回指導を行い、不安定な状況の学校生活である生徒に声かけを行い、問題行動として現象化することを未然防止に努める。
- ボランティア活動に参加する生徒を増やす。
- クラブ活動に参加する生徒の増加に取り組む。
- 生徒の「安心・安全度」を向上させるためには何が必要かを、部内だけでなく、職員一同で考えていく。

4 開かれた学校づくりを進め、家庭や保護者と課題を共有し、地域や関係機関の協力を得て、生徒の可能性を伸ばすための教育活動を共に行う。				
家庭、地域、関係機関に向けて学校情報を発信する。	(1)リアルタイムの更新に努め、学校情報を的確に発信し、家庭、地域、関係機関からの理解を得る。 (2)ホームページ担当者の育成に努める。 (3)簡潔明瞭で容易に理解できるホームページを作成する。 (4)メール配信システムへの登録を促す。	B	・ホームページの更新回数や改善は予定どおり行われている。 ・担当者の複数化にむけても、徐々に育成をしている。	総務保健部

【評価結果の分析】

- ホームページの更新回数は、20回となっており、できるだけ素早く更新に努めて情報を発信している。7月の豪雨災害など、休校の連絡が多かったことが回数増の要因である。
- メール配信システムについては、生徒の66.7%が登録、保護者の63.2%が登録をしている。

【今後の改善方針】

- 既存のホームページに改良・修正の余地がないかを点検し、ホームページの内容を各分掌で分担するなどが、引き続き今後の課題である。

5 業務の役割分担・適正化が着実に行われ、学校における働き方改革が実現されている。				
業務改善を推進することで、職員の超過勤務の時間数を縮減する。	(1)「働き方改革実行計画」に準じた時間外労働時間の限度を超えない組織運営体制を確立する。 (2)働き方改革に対する、保護者や地域の理解と協力を得る。	B	・時間外労働は、昨年に比べ大きく減少している。 ・保護者や地域の理解や協力は、得られていない。	管理職

【評価結果の分析】

- 定時退校や業務の偏りを減らし、組織的に行っていくとする取組みは、一定の成果をあげていると考える。
- 保護者や地域が理解を示しているかどうかという指標が定まっていないので、評価できない状況がある。

【今後の改善方針】

- 学校全体で「働き方改革」を意識するような取組を行ない、これまでの組織運営体制を確立する取組を継続する。
- 保護者や地域の理解と協力を求める具体的な取組を、各分掌、校務運営会議等で協議して明確にし、実践する。

平成30年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	宮崎 了昭	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	-------	-----	----

1 評価結果の分析

- 教育的な支援の観点に立った授業については共通認識ができており、各教科における教材作成や授業展開、試験問題、発問や言葉がけ等の工夫・改善の積み重ねが一定の評価となって表れた。
- 授業満足度(68%)が昨年度(79%)よりも低い数値となっているのは、振り返りシートの質問項目を変更したためと考えている。
- 教職員が組織的に行動できるように担任・副担任が個別の支援指導計画アセスメントを作成し、生徒理解支援会議を開催し取組んだ結果、困難性を抱えている生徒たちが自己肯定感を高め、安心して学校生活を送ることができるようになった。
- 授業参加や様々な活動ができるよう、非常勤講師、特別支援教育支援員・教科アシスタントの協力体制を構築した結果、一定の成果を上げることができた。
- 「キャリア教育ワークシート」については、82%が取り組み、自分を見つめ直すことができた。
- ジョブシャドウイング・インターンシップでは、日報・評価シートの記入を新たに取り入れ、生徒が毎日の作業を振り返り、事業所からの評価をもらうことで、仕事をする上での自分を見直したりすることができた。また、4日間の日程をやり切ったことで、自信につながり、参加した事業所への就労につながることもできた。
- 今年度の休学者は1名、退学者は3名で、生徒数の6%である。昨年度より人数が減少しているということは、学校の取組に一定の成果が表れていると考えている。
- 積極的に取り組み、小さな事象でも見逃さないことで、生徒指導上の課題解決、いじめ防止に努めることができた。
- スマートホンの使用に関する指導を統一的に導入した結果、授業中の使用を減少することができた。
- 第1回目の「学校生活改善アンケート」の生徒提出率は93.3%、保護者の提出率は93.0%であった。生徒の「安心・安全度」の肯定的な意見は69.6%、保護者の肯定的な「安心・安全度」は92.5%で、生徒に対する取組を検討し、肯定率を高める必要がある。
- ホームページの更新回数は、7月の豪雨災害など、休校の連絡が多かったため20回であった。今後も素早く情報を発信していきたい。
- メール配信システムについては、生徒の66.7%が登録、保護者の63.2%が登録しており、今後も加入を勧めていきたい。
- 定時退校や業務の偏りを減らし、組織的に行っていこうとする取組みは、一定の成果をあげていると考える。
- 保護者や地域が理解を示しているかどうかという指標が定まっていないので、評価できない状況がある。

2 今後の改善方策

- 授業研究会(校内・公開)について、その意義や価値を職員全体で共通認識し、継続して実施する。また、非常勤講師を含めた全教職員による参加体制については、今後も継続課題として考える。
- 振り返りシートについての活用法や、成果や課題の共有化の方法については、早急に分掌内で協議をして、具体的な案を提案する。
- 困難性を持つ生徒の特性については、現状ではほぼ理解ができている。しかし、具体的な手立てが確立していないため、今まで以上に保護者と信頼関係を持ち、関係機関に相談する体制も確立して、具体的な取組を立案し実践していく必要がある。
- 学年状況や個々の生徒の状況を的確に理解し、教育的な支援を行いながら「キャリア教育ガイダンス」「キャリア教育講演会」「生活体験文の記録」を実施することで、生徒の自己肯定感を高める。
- 生徒の進路選択の幅を広げ、生徒・保護者の希望が実現できるように、事業所や関係諸機関との連携、新規事業所の開拓に努め、ネットワークを広げていく必要がある。
- 授業中の巡回指導を行い、不安定な状況の学校生活である生徒に声かけを行い、問題行動として現象化することを未然防止に努める。
- ボランティア活動に参加する生徒を増やす。クラブ活動に参加する生徒の増加に取り組む。
- 生徒の「安心・安全度」を向上させるためには何が必要かを、分掌内で協議し、その意見をもとに職員全体で考え、実践する。
- 既存のホームページに改良・修正の余地がないかを点検し、ホームページの内容を各分掌で分担する。
- ホームページを担当できる教職員の育成を図り、複数人で業務にあたるようにする。
- 学校全体で「働き方改革」を意識するような取組を行ない、これまでの組織運営体制を確立する取組を継続する。
- 保護者や地域の理解と協力を求める具体的な取組を、各分掌、校務運営会議等で協議して明確にし、実践する。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- 保護者との連携を密に行う。特にホームページの更新などは、更新ごとに保護者に連絡し、保護者が学校の状況を熟知することで、学校に対する意識が高まる。また、そうすることで、保護者から多くの人に南校の状況、取組が広まるといった利点もある。
- 尾道南校の利点はフェイス to フェイスにあると考える。個々の生徒の対応はそれぞれで、簡単に具現化することはできないが、生徒に対する合理的配慮も踏まえて、丁寧な取組をこれからも行なっていく必要があると考える。
- 休・退学者に対する取組を引き続き継続して行う。昨年度よりも減少しているが、そのような兆候が見られる生徒に対しては、組織的に早期対応を行い、学校に位置づくように取り組む。

平成30年度学校関係者評価シート(中間評価)

校番	199	学校名	広島県尾道南高等学校	校長氏名	宮崎了昭	定時制	本校
----	-----	-----	------------	------	------	-----	----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	<p>○今までの取り組みを継続して、生徒の学力だけでなく、将来を視野に入れた自己肯定感を育むことを目標にして、計画されているので良いと思います。</p> <p>○それぞれの分掌が生徒や学校の課題を明確にし、目標や指標、計画等を設定しているので適切であると評価します。</p> <p>○ミッションとして尾道南校の存続があげられています。本年度、入学生が減少しましたが、この原因が尾道南校に内在する固有の要因に起因するのか、それとも社会全体の学齢期の減少の余波を受けているのかなど、その原因を分析し、そこから出た課題を行動計画の設定に落とし込んでください。</p>
計画の進捗状況の評価の適切さ	B	<p>○記載されている評価内容については適切であり、目標の達成に向けて適切な進捗管理が行われていると思います。</p> <p>○自己評価として、A が全くないのが気になります。事前に、最高の目標値ではなく、従来の実績と比べて変化がなければ、A と自己評価基準を決めておいた方がよいかと思います。</p> <p>○概して評価が厳しいと感じます。達成できている行動計画に対しては、高い評価を与えてください。年度途中で評価が難しいこともあると思いますが、そういう項目に対しては、中間基準を設けるなどして評価を行ってください。</p>
目標達成に向けた取組の適切さ	A	<p>○それぞれの項目で目標の達成に向けた取組が報告されていますが、どれも生徒たちのことを考えた真摯な取組であり、適切であると評価します。</p> <p>○先生方一人一人が、南校のミッションを達成するために、専門性を十分に発揮して取り組んでいる。</p> <p>○厳しい教育条件が南校にはあると思うが、生徒の自主的な「学び」を創り出すために、叡智にあふれた指導に取り組んでいると思う。</p> <p>○目標の達成に向けて、組織的な取組が行われるようになっている。</p>
評価結果の分析の適切さ	B	<p>○分析が不十分なところや、具体的に表記されていないところがあるので、説明を聞いていてもよく理解できないところがあった。</p> <p>○南校には様々な課題を持った生徒が入学してくるので、評価結果を分析するときにも、色々な角度から分析する必要があると考えます。</p> <p>○保護者や地域の方々、設置者である尾道市などのステークホルダーに対して、データに基づいた情報を(評価結果)提供することで学校としての説明責任を果たし、「開かれた学校づくり」を推進してください。</p>
今後の改善方策の適切さ	B	<p>○自己評価の結果に基づいて、職員間で具体的な手立てを考えたり、実践方法を具体化していこうとする改善方策になっていると思います。</p> <p>○これからの後半は、非常勤講師を含めた全職員による参加体制が取れるよう、データに基づいた校内議論を重ねていってください。</p> <p>○各分掌で目標の達成に向けた今後の改善方策が、よく議論されていると思います。その方策を実施することは必要ですが、柔軟性を持ってより優れた方策が見つかったり、実施する方策に誤りがみえたりした場合は、勇気をもって改めてください。</p>
総合評価	A	<p>○自己評価の多くが数値化され、取組や評価が可視化されている。</p> <p>○学校のミッションやビジョンを達成するための取組みが、組織的に行われ、一定の成果を上げている。</p> <p>○保護者との連携が密に行われているが、ホームページの更新などは、更新ごとに保護者に連絡し、保護者が学校の状況を熟知することで、学校に対する意識が高まると考える。</p> <p>○休・退学者は昨年度よりも減少しているが、今後も組織的に早期対応を行い、学校に来ることが困難な生徒たちの支援を継続的に行ってほしい。</p> <p>○先生方が出された自己評価は厳しい評価が多いと思います。現在(中間)の取組は、今後につながる取組として十分評価ができるので、総合評価は A とします。</p>

